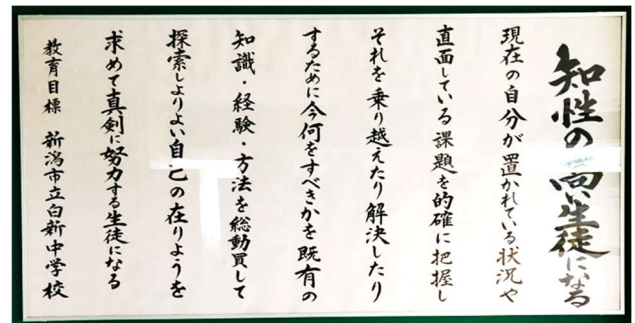


<p>合いことば</p> <p>知性白新 / 明朗白新 / ファイト白新 /</p>		<p>教育目標</p> <p>知性の高い 生徒になる</p>
--	--	---

【令和5年度 前期学校評価アンケート結果(7月)について】

白新中学校では、教育目標「知性の高い生徒になる」を掲げています。生徒玄関から北斗校舎（教務室のある校舎）へ向かおうとする右手に、この教育目標が意図するところを記した額があります。来校の際には、ぜひご一読ください。これからの変化が激しく予測困難な社会を生き抜く生徒たちだからこそ、今まさに求めたい姿がそこには記されています。



そして、この教育目標のもと、『自己実現に向けて努力する生徒』を目指す生徒とし、その目指す生徒の姿を「自ら考え判断する」「自分の思いを表現する」「認め合い励まし合う」「挑戦しやり抜く」という4つの資質・能力でとらえています。これにより、〈教育目標〉～〈目指す生徒〉～〈育成する資質・能力〉という目標系列による意図した教育課程に基づいた年間の教育活動を計画し、取組の重点を掲げて取り組んでいます。

重点1 資質・能力を育む深い学びを目指した授業の充実

生徒の資質・能力を育む上で、日常の授業を生徒にとって魅力的なものにしていくことが何より重要だと考えています。生徒の「考えてみたい」「やってみたい」「挑戦したい」等の興味・関心を授業の中で引き出し、教科を学ぶ価値や楽しさを実感できるようにしていくことで、各教科が好きになり、生徒自ら主体的に学び続ける姿へと繋がっていくと考えます。

生徒アンケートの「(教科)が好き」の割合を重点1の一つの指標としています。表1は、生徒アンケート(7月)の結果です。

表1

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施
	1・2の合計の割合(そのうち1の割合)
①〇〇の教科は好きですか	70% (40%) ※9教科の平均
②〇〇の教科は分かる。	89% (52%) ※9教科の平均

①の「教科が好き」は、70%の生徒が肯定的な評価をしています。しかし、「1(あてはまる)」と回答している生徒は40%という実態があります。教員の授業力を高め、生徒の主体的な学びを実現できるよう日常の授業改善に努めてまいります。

※全国学力状況調査の結果は、白中通信5号で発行しました。併せてご覧ください。

重点2 リーダー経験を中心に自己有用感の向上を目指した活動の充実

「体育祭」「演劇発表会」「合唱発表会」の三大大事は、生徒全員がリーダー・フォロアーの役割を理解したり、リーダーシップを発揮したりする機会とし、一人1回以上のリーダー経験ができるようにしています。リーダーを経験する中で、課題を設定し自分で判断して行動したり、フォロアーの立場になって自分のとるべき行動を考えたりする経験を通して、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という「自己有用感」を育むことができます。

自己有用感を高めることは、「自ら考え判断する・自分の思いを表現する・認め合い励まし合う・挑戦しやり抜く」という資質・能力の育成に繋がると考えています。表2は、重点2に関わる生徒アンケートの結果です。

表2

1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった。	67% (23%)
②行事や学級、生徒会などの活動でリーダーと協力して活動するようになった。	82% (39%)
③他の人が努力していることに、アドバイスをしたり、一緒に活動したり励ましたりするようになった。	93% (45%)
④学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしています。	84% (37%)
⑤7 チャレンジで学んだことを日常の生活の授業や学校生活の中にかかしています。	85% (33%)

生徒アンケートの結果から表2①の「自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった」が他の項目に比べて数値が低い結果となりました。この原因の一つとして生徒の振舞いに対する周囲の大人の「価値付け」に課題があると捉えています。「認めてくれた」「褒めてくれた」「頑張りを見てくれている」という思いが「信じてもらっている」という安心感や「さらに改善して頑張ろう」という姿へと繋がっていくと考えます。次のポジティブフィードバックのポイントを職員で共有し、指導・支援に努めていきます。ぜひ、ご家庭でも実践していただけるとありがたいです。

<ポジティブフィードバックのポイント>

- よかった点を具体的に伝える。
- 原則，即時行う。
- 人前だとなお良い。
- 言葉と身振りで示す（心を込める）。
- これからの課題についての助言する。

重点3 自己理解につながる多様な価値観に触れる機会の充実

学校は、今を生きる生徒にとって、未来の社会に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会と

の関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもあります。学校そのものが、生徒や教員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会であり、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められたり、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感をもつことができる場であると考えます。このような実感が、生徒の主体的な学びや学んだことを人生やこれからの社会づくりの中で生かしていく姿へと繋がっていくと考えます。

このような姿を目指すために、「地域と関わることを軸に自分の生き方を見つめ直す総合学習」の充実に取り組んでいます。具体的には、図1のようにターム制を採用し、職場体験や地域課題解決学習等、多様な価値観に触れる機会を設定しています。表3は、重点3に関わる生徒アンケートの結果です。

<図1>





1 ターム	1 年生	<p><身近な地域の歴史> 身近な地域の歴史の中で、八番組（住吉行列）や明和騒動に焦点を当てます。みなどびあ（歴史博物館）や白山公園を訪問したり、地域の方から話を聞いたりして、身近な地域の歴史を学びます。学んだことを生かし、演劇発表会で「にいがた樽碁—明和義人口伝」を題材に表現します。</p> 
2 ターム	2 年生	<p><働く（職場体験）> 様々な職業の方からの講演や3日間の職場体験学習を通して、働くことの喜びや苦勞、働いている人から見た地域のよさや課題、自分たちができることなどを考えます。このように学んできたことの中から大切なことを「伝えたいメッセージ」としてまとめ、演劇発表会で表現します。</p> 
3 ターム	3 年生	<p><持続可能な社会SDGs（地域課題解決学習）> 持続可能な社会やSDGsを達成するためには、まずは身近なところから行動することが大切であることを学びます。身近な地域の課題に焦点をあて、課題解決のアイデアをもって、行動を起こします。その学びの中から大切なことを「伝えたいメッセージ」としてまとめ、演劇発表会で表現します。</p> 
4 ターム	3 年生	<p><自分の成長を振り返る（卒業発表会）> 中学校で学んだことや経験したこと、出会った（関わった）人を、「未来への足跡ノート」やキャリアパスポートなどを使って振り返ります。また、授業や生徒会活動、日常活動で大切にしてきたことを踏まえて、これからの自分の生き方を考えます。このようにして考えたことを卒業発表会で表現します。</p> 

表3

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

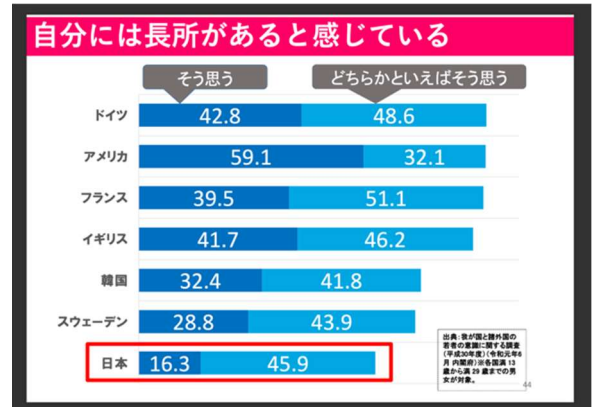
生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①自分にはよいところがあります。	67% (23%)
②地域や学校で先生以外の大人から褒められたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります。	82% (39%)
③地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きです。	93% (45%)
④地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。	84% (37%)

学校と地域が連携して、子供たちに多様な価値観に触れることができる機会を創り出すことはできています。また、生徒は他者との良好な関係の中で活動することもできています。しかしながら、表3①の「自分にはよいところがある」の数値が低い結果となりました。①の数値が低くなっている原因を次のように捉えています。

生徒は、先輩の姿や身近な大人を生き方のモデルとし、自己との比較を通して成長していきます。しかし、

比べることで「自分の至らない面」がクローズアップされてしまうことがあります。自分の足りない面に意識が行き過ぎると、自分の良さに気づきづらくなってしまいます。また、自分の至らない面にフォーカスし過ぎると、自分に自信がもてず、「失敗してはいけない」や「はずれはいけない」という正解主義に陥り、「言われたことを言われた通りに」「みんなで同じことを同じように」という同調圧力が働いてしまいます。これによって、自分らしく生きることに難しさを感じてしまいます。日本の子どもは「自分には長所がある」という問いに対して肯定的な反応を示す割合が低いという結果がでています(図2)。これは、当校の生徒においても同様であると捉えています。

<図2>



これから脱却していくには、他者との比較の中でマイナスの面に着目するのではなく、自分の強みにフォーカスしていくことが必要です。このような環境は学校だけで実現することには限界があります。保護者・地域の皆様と連携し、生徒一人一人の強み(長所)を伸ばしていく教育環境を創出していければと考えています。

学校では、重点2と同様に、ポジティブフィードバックを意識して一人一人のよさを自覚できるように指導・支援していきます。また、生徒の頑張りを外部にも積極的に発信することで、保護者や地域の方からも価値付けていただけるように取り組んでいきます。

重点4 個別の課題に応じた指導・支援の充実

生徒一人一人が安全・安心に学校生活を送ることができる学校を目指しています。そのために、今年度は次の点に力を入れて取り組んでいます。

- 教育相談の充実
- 睡眠教育による生活習慣改善（調査・支援）
- ケース会議を核とした課題把握と役割分担を明確にした指導・支援体制の強化
- 校内適応指導教室や保健室の活用ルールを明確にするとともに、関係機関との連携

表3は、重点4に関わる生徒アンケートの結果です。

表3

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施
	1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①困ったことがあれば誰かに相談することができる。	92% (57%)
②学校の中に居心地のよい場所がある。	90% (51%)

アンケートの結果だけでなく、日常での生徒の様子や悩み等に寄り添いながら継続して安全・安心に学校生活を送ることができよう努めていきます。保護者の皆様のご協力をいただきながら、次の点を目標として取り組んでいきます。

- 生徒は、健康に学校生活を送ることができる生活の質を高めるための生活リズムを整える。
- 家庭は、生徒に健康な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立させる。
- 教員は、睡眠を含めた健康状態、各種指標を参考にしながら、一人ひとりの生徒理解に努める。
- 教師は、魅力ある授業づくりを通して、「明日も行きたくなる」魅力ある学校づくりに努める。

4つの資質・能力について

今年度は、資質・能力を「生徒」「教員」「保護者」の三者にアンケートを実施し、数値からその意識の違いを分析し、今後の指導・支援に繋げていきたいと考えています。次の表5は三者アンケートの結果です。

＜表5 資質・能力に関わるアンケート結果＞

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

資質・能力	生徒の項目		教員の項目	保護者の項目	生徒	教員	保護者
					「1」「2」 の合計	「1」「2」 の合計	「1」「2」 の合計
自ら考え 判断する	1	何かを選ぶ時や決める時に、最後は自分が選んだり決めたりするようになった。	生徒が何かを選ぶ時や決める時に、生徒が自己決定するように働きかけている。	何かを選ぶ時や決める時に、お子さんに自分なりの理由や根拠を確認した上で選んだり決めたりさせています。	91%	95%	91%
	2	何かを決める時、なんとなくではなく理由や根拠をもとにして考えるようになった。	生徒が何かを決める時、なんとなくではなく、理由や根拠をもとにして考えるように働きかけている。	お子さんは、何かを選ぶ時や決める時に理由や根拠をもとに、最後は自分で選んだり決めたりしていますか。	85%	89%	86%
自分の思 いを表現 する。	3	自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった。	生徒が自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりする機会を設定している。	お子さんの話を遮らずに、最後まで聞くようにしています。	67%	79%	86%
	4	自分の思いや考えていることを表現しやすい学級になってきた。	生徒が自分の思いや考えていることを安心して表現できる学級（学年）づくりに取り組んでいる。	お子さんは、家庭で自分がやりたいことやがんばっていることを話していますか。	84%	89%	81%
認め合い 励まし合う	5	行事や学級、生徒会などの活動でリーダーと協力して活動するようになった。	行事や学級、生徒会などの活動場で、リーダーとフォローについて働きかけ、よりよい関係づくりに取り組んでいる。	お子さんに、様々な人のいいところやがんばっていることを話すようにしています。	82%	95%	83%
	6	他の人が努力していることに、アドバイスをしたり一緒に活動したり励ましたりするようになった。	生徒が互いに高め合う（友達が努力していることにアドバイスをしたり、一緒に活動したり、励ましたりする等）ように働きかけている。	お子さんは、他の生徒のいいところやがんばっている様子を話していますか。	93%	95%	76%
挑戦しや り抜く	7	行事や学級、生徒会などの活動で、自分の役割を責任もって最後まで取り組むようになった。	生徒が行事や学級、生徒会などの活動で、自分の役割を責任もって最後まで取り組むように働きかけている。	お子さんが努力していることを見つけて伝えていています。	92%	95%	88%
	8	難しい目標や苦手なこと、うまくいかなかったことを、できるように努力するようになった。	生徒が目標や苦手なこと、うまくいかなかったこと等に挑戦・努力しているプロセスを具体的に価値付けている。	お子さんは、難しい目標や苦手なこと、うまくいかなかったことを、できるように努力していますか。	85%	79%	67%
自己実現 に向けて 努力する	9	目標に向けて続けることができる。	生徒が目標をもって挑戦するように働きかけている。	ご自身が生活・趣味・仕事など、目標をもって努力していることがあります。	80%	84%	79%
	10	このようになりたいという目標をもっていたり、あこがれやモデルとなる人がいたりする。	生徒がこのようになりたいという目標をもてるように、あこがれやモデルとなる人との出会いを設定している。	お子さんは、このようになりたいという目標をもっていたり、あこがれやモデルとなる人がいたりしますか。	73%	53%	57%

項目3の生徒アンケート「自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった」

が67%と低い数値になりました。一方で、教員は79%、保護者は86%と生徒よりも高い数値になっています。これから分析できることとして、重点2でも述べたように、教員は意識をして生徒が表現する機会を意図的に多く設定しています。保護者の皆様も、お子様の話を最後まで聞いてくださっていることが分かります。にも関わらず、生徒アンケートの数値が低いのは、「価値づけ（フィードバック）」に課題があると考えます。教員や保護者、地域の方からの価値づけが、生徒に自信を持たせ、主体的に表現する姿へと繋がっていくと考えます。では、どのように「価値づけ」をすればよいのでしょうか。文部科学省国立政策研究所は、次のように述べています。

大人が子供を「褒める」ときは、**一般に大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。**そして、大人の側がわの基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。反対に言えば、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることは稀まれでしょう。それに対して、子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のではないのでしょうか。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから、大人の考えた基準に達していなくとも「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた水準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりするわけです。だから、自分がさほど努力もしていない、自分の功績ではないことを、「みなさん、よく頑張りましたね」と全員を一括りにして褒められても、さほどうれしくもなく、励みにもならないのかも知れません。子供の実際の行動と向き合うことなく、表面的にお世辞を言ったり、ちやほやしたりしても、子供の「自己有用感」はおろか、「自尊感情」すら高めない可能性が高いのです。**行事に取り組む、学習に取り組む際などに、子供自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが「認める」という行為では重要になります。**それが、「自己有用感」を育むのです。単に良かった・悪かったと評価するだけの「褒める」では、「自尊感情」を育むことはできても、「自己有用感」を育むことにはなりにくいのです。

このことから、生徒が何を目標にして、どのように努力しているのかを把握し、その姿を「認めていく」ことが自己有用感を高め、自ら主体的に表現する姿へと繋がっていきます。学校と家庭で協力して、生徒の目標や努力を共有しながら価値づけていければと考えています。

＜情報発信についてのアンケート結果＞

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

項目	「1」「2」の合計 (%)	回答
学校だより（白中通信）、学年だより、学級だよりはよく見ます。	86%	各種たよりを見ていただき、ありがとうございます。「写真がカラーでみることができ、学校の様子がとてもよく分かります」「写真付きの便りを定期的に出していただき、学校での様子を知ることが出来ます。ありがとうございます。それをきっかけに家庭でも話をするようにしています」等のご意見を多数いただいております。今後も継続して、成長の成長や願いを発信しています。
お子さんや学校の様子を見る（知る）機会は十分あります。	67%	行事や授業参観、各種たより等、お子様の学校の様子を知る機会を設定していきます。
学校のホームページやSNS（Facebook・Instagram・Twitterなど）を見ています。	52%	「子どもたちのタイムリーな様子を知ることができ、毎回楽しみにしています」等のご意見をいただいております。ありがとうございます。今後も継続して、学校の様子や子どもたちの成長をタイムリーに配信しています。

白新中の SNS 情報はこちら！

Instagram や Facebook 等で、白新中学校の様子をお届けしています。ぜひご覧ください。



白新中学校HP

Instagram

Facebook

<保護者アンケート



|記述より



「いいね！」

○学習指導に関わる内容について

質問内容	回答
<p>・定期テストの順位を知りたいと思う人には伝えて欲しい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。定期テストの目的は、学習した内容の理解と定着を確かめることであり、他者と競うことではないため、白新中学校では順位をつけておりません。なお、配布している結果資料にグラフを掲載しております。それを見ていただければ大まかな位置を把握できます。</p>
<p>・勉強ができない（苦手）な子供に対しての声かけやサポートはどのように行っているのか聞いてみたい。</p>	<p>授業内では、教員が直接サポートしたり、周りの生徒と対話したりして理解を深められるようにしております。また、ICT機器の活用の一環で学習支援動画等の活用にも取り組んでいます。単元テストや小テストでは補習や再テストを、定期テストでは事前に質問教室を設けるなどを行っています。ご心配なことがあれば、担任または学校に気軽にご相談ください。</p>
<p>・子どもの話しを聞いていると個々の生徒に注意をしていたりして授業の開始が遅れたりすることが度々あるように感じる。注意のあり方を少し考えていただきたい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。注意のあり方について職員で共通理解を図り、授業に支障がでないように努めていきます。</p>
<p>・単元テストや小テストなどの実施時期は、学年で統一して行なってほしい。また、宿題や課題を出してほしい。</p>	<p><単元テスト・小テストについて> ・教科内ではできる限り同じ日で実施できるようにしています。しかし、祝日や学校行事等の理由で、どうしてもクラスによって授業の進み具合にばらつきが出てしまい、同日に実施できない場合もあります。 <宿題・課題について> ・学校で統一して宿題を出すことにしているのは長期休業の時のみです。 ・年度初めのオリエンテーションや授業の中で、学習の進め方や予習・復習の方法等を指導しています（説明する際、資料を配付しております。）。それらをふまえて生徒が自主的に家庭学習を計画、実行できるように学校と各家庭が協力して支援していきましょう。 ・学習の進め方を軌道に乗せるために、宿題を出している教科もあります。</p>

○進路指導に関わる内容について

質問内容	回答
------	----

<p>・公立高校 web 出願システム運用テストの際、生徒と保護者どちらにもわかりやすい説明をしていただき、大変ありがたかったです。オープンスクールの連絡等も毎回早めにいただけて助かっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします</p>	<p>ありがとうございます。今後も生徒と保護者の皆様がよりよい進路選択ができるように努めていきます。何かご不明なことやご心配なことがあれば、いつでも学級担任や進路担当にご相談ください。</p>
<p>・進路についての情報を詳しく知りたい</p>	<p>進路にお困りの際には、学級担任や進路担当まで、お気軽にご相談ください。</p>

○部活動，校舎等について

質問内容	回答
<p>・クラブ活動のための鍵ボックスを冬が来る前に早くつけて欲しい。私は仕事で当番ができませんが、陸上競技場に鍵を取りに行くのはものすごく負担だと思われま</p>	<p>ご意見は、12月に白新ユナイテッドクラブ研修会にて共有させていただきます。所属されているクラブ代表者を通じ、クラブ研修会においてもご意見いただきながら、今後の地域クラブの発展のためにお力添えをいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>・部活動の時間、教員が見守りしているのであれば、指導もしてもらえないか？ 夏休みの部活動はしてもらえないか？</p>	<p>ご意見ありがとうございます。白新中学校の部活動では、平成31年度より、部活動によって「尊重」「勇気」「覚悟」のスポーツマンシップを育むことを5年前より実践してきました。教わるのを待つのではなく、自ら主体的に考え練習に励むことで、この資質能力は育まれます。顧問は安全管理に留意しながら、生徒の活動で困っている時に手助けができるサポートに努めております。ユース世代の指導の在り方について、顧問会等で研修を積み重ねながら至った形ですのご理解をいただきたく存じます。</p> <p>夏休みの活動においては、午前午後ともに屋外はもとより武道場・体育館とともに WBGT（暑さ指数）が31℃を超えてしまう日が多く、熱中症予防の観点から、この状況下におけるスポーツ活動は、生徒の安全管理上実施することに適してはおりません。</p> <p>夏休み期間は演劇活動を校内で行っていることもあり、万全な指導・安全管理体制をとることが出来かねますのでご理解ください。</p>
<p>・夏休みや直前の追い込み時など、時間外活動が多く、先生の負担が大きいのではないかと例年感じています。近年の教員多忙解消の取り組みに逆行しているのではないのでしょうか。伝統だからと前例踏襲することなく、今の時代に合わせた行事となるよう、改革できないのでしょうか。 最重要事項である教科指導、研究に十分時間を割くことができるよう、現場の先生方の負担軽減をお願いします。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。行事については、昨年度より活動時間を見直し、勤務時間の中で最大限の成果を得られるように取り組んでいます。今年度の体育祭では、教員の勤務時間内で体育祭活動を実施することができました。現在、演劇に取り組んでいます。時間を意識し、子どもたちの成長につなげられるよう努めて参ります。また、日常の授業が何より大切であると考えております。授業準備の時間を確保できるよう業務改善を継続していきます。</p>

・トイレが古く汚い。トイレを我慢している生徒もいるとき。早急に改修してほしい。
・北斗、銀河ともに2階の女子トイレが臭すぎて入れないそうです。掃除をしても臭いがとれないようです。業者による清掃や改修の検討をお願いします。

トイレの改修も含め、よりよい環境となるよう学校からも引き続き教育委員会に働き掛けていきます。

保護者全員の皆様から学校評価アンケートへのご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ、魅力ある学校を目指して今後も継続して取り組んでいきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。